

～環境学館いずみボランティアスタッフによる「いずみガイド」～

1月のテキゴト

1月18日(日) いずみ理科教室地球温暖化を考えようー温暖化実験ー

毎年、恒例の講座です。参加者は当日欠席があり小学校が男女計4名、父兄2名、計6名で、13:30～15:30の2時間の講座でした。

先生は、環境カウンセラーの金子玲司先生が担当されました。恒例の講座ですが、実験結果がうまくでないことがありました。先生には前日から来て頂き、当日は午前中予備実験も行い、準備が大変でした。

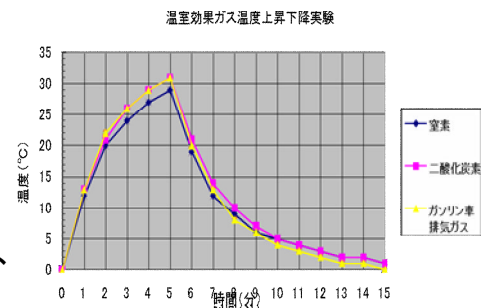
この講座は、地球温暖化現象を簡単な実験で体感しようと言うのが目的です。まずは温暖化のクイズから始まりました。地球をサッカーボールと例えると、空気の層の厚さは何mmになるか分かりますか。(答えは9mm)。その後、温暖化実験でした。



1つ目の実験は、温暖化ガス(窒素、二酸化炭素、自動車排気ガス)をフラスコに入れて実際に暖めてみる実験でした。暖める装置をしっかりとセットし、分担を決めて、時間毎に温度を記録しました。3種類の実験で45分間かかり、時間を読み飛ばさないように、緊張と根気が必要で疲れましたが頑張りました。結果は、パソコンでグラフにしました。普通の空気に近い窒素に比べて、二酸化炭素、自動車排気ガス等の温暖化ガスは冷めにくいことが判りました。

2つ目の実験は温暖化ガスを目で確認するもので、石灰水中にガスを吹き込み、濁る様子を観察するものでした。二酸化炭素は、あっという間に白濁しました。人の息は、なかなか白濁せず、色とスピードで明らかに違いがあることが分かりました。

最後にまとめで、先生から地球温暖化の仕組みと対策について、教えて頂きました。太陽熱で暖められた空気を赤外線として、宇宙に放出しているに、温暖化ガスがあると、それができなくなってしまうのが分かりました。私たちにできることは、省エネ、ゴミを減らすことなど色々あるなあと思いました。(Y・I)



ボランティア活動中☆

いずみの開館からお手伝いをさせていただいて6年になります。6年かけてわかったことと言えば、環境の問題はあまりに広く複雑だということでした。原因が直接結果に結びつくことはむしろ少なく、専門的な知識なしには理解が難しい事象も少なくありません。とはいえ、一人ひとりができる「環境にやさしい生活」の工夫が多くあることも知りました。

しかし、善意による個人の活動にはやはり限界があり、環境負荷をできるだけ抑える社会の形成には政治や行政による取り組みが不可欠ではないでしょうか。坂戸市にはまだまだ豊かな自然が残っています。全国でも珍しい、環境学習に特化した施設「環境学館いずみ」を持つ、坂戸市の取り組みに期待しています。(J・H)

